

平成 30 年度 研究所研究実績報告書

平成 31 年 3 月 26 日  
 部門長名 関根 郁夫

研究所・部門の名称	教職研究
設置年限	平成 27 年 4 月 1 日～平成 32 年 3 月 31 日
1. 研究の取組状況	
<p>(1) 教職にある本学卒業生・在学生並びに本学連携市の教員を対象とする講習・研究の取組み</p> <p>① 就学前教育及び幼保小連携及び教員研修の充実に関する講習・研究</p> <p>ア、講習（文科省中央審議会委員や幼児教育・義務教育従事（実践研究）者等を招聘し、日本の幼児教育課題解決策や公私幼保小・中連携に関する研究協議を実施した。</p> <p>イ、連携市教育委員会指導主事等と教員研修の内容や方法について、先行研究等や各自治体の教育に関する課題解決を目指した研究協議を実施した。</p> <p>(2) 教員研修の充実方策に関する調査研究</p> <p>・都道府県教育行政が進める教員の資質向上に関する取組みとその成果を調査・分析し、本学として実施する教員研修の内容・方法の充実策について検討した。その際、連携市教育委員会の教員研修担当指導主事等と協議し、研修内容・方法を明確にし、教員研修を協働実施した。</p>	
2. 研究の成果・概要および公表実績・予定（年月日、開催場所、方法等）	
<p>(1) 教職にある本学卒業生・在学生並びに本学連携市の教員を対象とする講習・研究の取組み</p> <p>・新座市「新座市教職 3 年経験者研修」（対象；31 名／小学校教員 17 名・中学校教員 14 名）              日時；平成 30 年 8 月 22 日（水）8：40～16：50              挨拶・講話；学長 志村二三夫              講義・演習；①「プログラミングの実際と教育」（安達 一寿 教授）              ②「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」（日出間 均 教授）              ③「主体的に学ぶ児童生徒の育成に係る具体的方策」（綿井 雅康 教授）              ④「学校の組織運営への参画と自己省察」（宮川 保之教授）</p> <p>・志木市立小学校教員（外国語教育）研修（対象；小学校教 14 名）              日時；平成 30 年 8 月 17 日（金）8：40～16：50              挨拶・講話；綿井 雅康 副学長              講義・演習；①「これからの英語教育－英語教育改革の経緯－」（松岡 敬明 教授）              ②「外国語・外国語活動（英語）の授業づくり」              特別講師；東京都荒川区立尾久第六小学校長 高橋 美香              ③「聞く・話す必然のある活動の実際」              特別講師；KK「ユニバーサルサウンドデザイン」副塾長 渡部 秀雄              ④「外国語（英語）でのコミにケーションを図る基礎と書くことの実際」              特別講師；KK「ユニバーサルサウンドデザイン」副塾長 渡部 秀雄              ⑤「外国語活動等のもう一つのねらいとその具現化」（宮川 保之 教授）</p> <p>・清瀬市「教職 3 年経験者研修」（対象；小学校教員 14 名，中学校教員 4 名）              日時；平成 30 年 8 月 24 日（金）8：40～12：30              講義・演習；①「主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり」（富山 哲也 教授）              ②「外部との連携・折衝力と学校運営力の向上」（宮川 保之 教授）</p>	

- ・清瀬市「教職2年経験者研修」(対象；小学校教員9名，中学校教員2名)  
日 時；平成30年8月27日(月) 8:40～12:30  
講義・演習；①「児童・生徒が学びに向かう授業づくり」(宮川 保之 教授)  
②「特別支援教育の内容・方法と授業づくりの実際」  
特別講師；東京都調布市立飛田給小学校校長 山中 ともえ  
③「深い学びを実現する授業づくりー 学習指導案の検討ー」  
(堀竹 充 教授，宮川 保之 教授)
- ・志木市教育委員会一斉研修会  
日 時；平成30年11月2日(金) 13:00～16:30  
講師；山本悟教授，清水玲子特任教授，狩野浩二教授，中西郁教授，宮川保之教授，  
堀竹充教授，谷口正夫・阿部卓特別招聘講師(教職課程センター)，  
内容；各教科，道德等の授業研究に係る指導・助言及び研究授業の指導講評

## 成果と課題 (成果)

- ① 研修に参加するに当たっての意識や意欲の程度
  - 課題意識を持って参加したと申告した教員の割合は8割強であった。一方課題意識をあまり持たずに参加したと応えた教員の割合は2割弱を占めていました。
- ② 研究内容の理解の程度
  - 内容を十分に理解できたと回答した教員の割合は、5割強であった。理解できなかった・あまり理解できなかったと回答した教員数はゼロでした。
- ③ 研修内容の質と程度
  - 内容がこれからの教育実践や教員としての資質・能力形成に役だつと評価できるかどうかを訊ねた。十分に役立つと回答した教員の割合は6割強，おおむね役だと回答した教員の割合は3割であった。
- ④ 研修の満足度
  - 7割の教員が十分満足，3割の教員がおおむね満足と回答した。
- ⑤ 研修全体を通しての感想
  - ・ 知の更新」は、何歳になっても大切なことであり，ストップしてはいけないと実感した。「知る」＝「楽しい」を改めて感じた。今日の自分のように「知ることの楽しさを目の前の子供たちが味わえるように取り組んでいきたい。(新座市)
  - ・ 外国語の授業を展開するアイデアが十分に無く、全てALTに任せてきた。本日の演習・講義で得た教材や指導法などを援用して，楽しい英語の授業を実施できそう。(志木市)
  - ・ 昨年の2年次研修に続き，母校(十文字学園女子大学)で2度目の研修を受け，誇らしく思った。担任する子供を思い浮かべながら障碍の理解を深めたり，その子供の特性を活かした指導したりできる自信を高めた。(清瀬市)

なお，連携市教育委員会の教育長より，教員の育成課題に十分に答える研修(講義・演習)であったとの評価を得た。

## (課題)

- ① 研修課題の把握と助言  
各自治体の教員育成に係る取組みと課題等について，教育委員会担当者や学校管理職等からヒアリングし，研修内容・方法を決定するなど，研修の企画・運営を丁寧に行う。
- ② 連携市の協力支援事業の推進組織を置く  
連携市の期待に応えるため，学内の教員に依頼することが難しいことなどが増えきた。学内に本件を含め，連携市の協力支援事業を総合的に進める部局・担当を置くことを検討する。  
連携市教育委員会の研修企画の支援や，研修計画の作成，研修の準備や当日の運営，研修の成果検証等に加え，研修講師依頼文の作成や講師謝金等の支出に関する文書等の作成等々，一人の教員でなせる仕業ではない。
- ③ 指導者(講師)の確保等  
外国語・外国語活動等の実際を指導・助言できる教員は限られている。今回は外部にその適任者を求め，協力を頂いて実施した。受講者はもちろんのこと，関係市教育委員会より，高い評価を頂いているが，要請した外部人材への謝礼や，演習等で用いた教材に要した金銭の出所を明らかにしたい。
- ④ 費用負担  
本件連携市の教員研修事業の必要経費は，本学が負担している。本学の教員のみでは，連携市教育委員会が目指す研修課題に応えることが困難な内容もある。よって，30年度の本件事業では，特に小学校外国語(英語)に関する実践的な研究や学習指導経験の豊かな人材を外部に求め，本研究部門の予算を充て，対応した。  
また，研修において，種々の研修技法(KJ法等)を援用する際に，付箋紙や模造紙等々の文具類や，市販の資料を用意するに当たり，如何ばかりかの費用を必要とする。  
これまでは，本件担当教員の研究基盤経費等から支出していたが，今後は，連携協定市教育委

員会や受講者個人の負担を求めるなどの途をつけたい。

(2) 教員研修の充実方策に関する調査研究

東京都や埼玉県教育委員会が進める教員の資質・能力に関する諸事業や教員の育成目標等と各教育委員会が実施する他の研修内容等との関連や整合性を計るなどの検討を加えるとともに、担当指導主事等と研究協議を行い、内容・方法等を確定し、上記2の(1)研修を実施した。

本報告書作成担当者 所属・氏名	連絡先内線番号
次世代教育推進機構長代理 宮川 保之 (児童教育学科)	415